

## 認定こども園たまかわクックの森の視察結果について

### 1 視察日時

令和5年10月12日（木） 14:00～15:30

### 2 出席委員数

10名

### 3 概要

#### (1) 開園の経緯について

・玉川村では、村立の2幼稚園（いずみ・すがま幼稚園）と1保育所（泉保育所）について、施設の老朽化や多様な保育ニーズへの対応といった課題を受け、施設整備の検討を随時行ってきました。

・検討を重ねた結果、幼児教育と保育の機能を一体化した幼保連携型の認定こども園を村社会福祉協議会に移管して建設運営することとし、平成28年4月に民設民営として開園となりました。

#### (2) 施設規模等について

・定員は230名、現在保育部5クラス63名、幼稚部7クラス126名、教職員は保育部、幼稚部ともに15名ずつ配置されている。

・施設面積は8,900㎡、延床面積2,900㎡、園庭面積2,100㎡、木造平屋建、オール電化、温水床暖房等の設備を有する。

・現在村内の保育施設はクックの森1園であり、村内の子どもは生後6カ月から順次入園をしている。

#### (3) その他について

・開園時間は、午前7時15分から午後7時まで。

・園児数は開園当初から昨年度まで200名超を維持してきたが、今年度初めて200名を割り込み180名でのスタートになった。

・幼小連携については、村内2小学校と連携し運動会や発表会等の行事の際に相互に参観をするほか、村教育委員会が主体となり園・小・中連携の協議会で0歳から15歳までの一環した教育を目指している特徴がある。

・こども園の周辺には、クックドームや文化体育館、グラウンド等の施設が集約されており、それらの施設を保育教育に活用できている。

・通園バスは「いずみ地区方面」と「須釜地区方面」の2系統に分かれて送迎が行われている。（登園時2台、降園時1台）なお、通園バス利用と個人の送迎の割合は1対3くらいの割合になっている。

・閉園となった園については、放課後児童クラブとして利用したほか、解体して宅地としたものもある。

#### 4 委員からの主な感想・意見

##### (1) ソフト面について

- ・各クラス複数名の教職員が配置されているので子どもに目が届きやすい
- ・子どもの数がある程度確保されているので教育活動が広がりやすい
- ・幼・小・中の連携が良く考えられている。
- ・0歳児から5歳児までの一貫した保育・教育できる環境がとても良い。
- ・年齢が上がるにつれ小学校入学に向けた教育スタイルの変化が見て取れた。
- ・園周辺の施設を有効に活用した保育・教育活動が行われている。

##### (2) ハード面について

- ・広くてきれいな園舎で子どもたちが快適に過ごしている印象がある。
- ・保育室にトイレ・シャワー設備が充実している。
- ・周辺に自然環境が多く共生できていると感じた。
- ・保育管理がしやすい施設になっている。(先生の目が届きやすい)
- ・施設が広すぎて目が行き届くのか心配。
- ・強い地盤の上に建設され、施設西側に小高い丘があり冬の冷風が防げるなど施設配置がよく考えられている。

##### (3) 全体をとおしての感想・意見

- ・村立よりも社会福祉法人(私立)の方が財政的メリットが高いということで町でも検討の余地がある。
- ・1号認定より2号認定の方が多いということで延長保育ありきの整備が必要。
- ・周辺に住宅がないため保育がしやすいメリットがある。
- ・クックの森に様々な施設が集約されており村の計画性が感じられる。
- ・職員の数が充実しており防犯・防災の面でも有効であると感じた。
- ・矢吹町に園を新設をする際の参考になると考える。